



神奈川県

神奈川県産業技術総合研究所 工芸技術センター

KANAGAWA

# 工芸ニュース

平成13年度

編集発行 神奈川県産業技術総合研究所 工芸技術センター

〒250-0055 小田原市久野621 TEL0465-35-3557 FAX0465-35-3936

ホームページ <http://www.kanagawa-iri.go.jp/>

NO.2

VOL.31-2

2001.10.5

## 新たな工芸品の市場展開の取り組みについて

今、不況で物が売れないと言われています。工芸品業界も同様に厳しい状況に置かれています。しかし、市場をみると、特定の高級ブランド製品は売れています。また、低価格での話題商品もいろいろあり、売り上げを伸ばしています。このように市場動向は2極化しており、この傾向は工芸品関係も例外ではないと考えられます。このことは、デパート販売方式の不振とあわせ、市場展開にこれまでとは別の視点からの取り組みが必要であると言えるでしょう。

まず、ファッション関係の2極化の事例から、幾つかのキーワードを拾ってみたいと思います。

高価格商品の代表として高級『ブランド商品』があります。人気ブランド品は高いデザイン性とブランドイメージが確立しており、長い間に培われてきたデザインや技術に対するこだわりの哲学があります。このこと自体、魅力であり、かつ、ステータス感を満たすことができます。一方、低価格商品の代表としてユニクロ（UNIQLO）の衣料品が上げられます。低価格でありながらしっかりした縫製やカジュアルなファッション性など納得できる買い得感があります。また、豊富な色柄のバリエーションにより『品物選びの楽しさ』の演出や、すぐ持ち帰れるよう、細かくサイズ設定するなど、販売展開での工夫が多数みられます。

では、このキーワードを産地木製品で考えた場合、どのような展開があるでしょうか。

『ブランド商品』＝県内にはすでにブランドと言ってよい工芸品も多数あり、多様な優れた木工技術があるのですから、妥協せずその品質を高め、目の肥えた生活者にも納得できる良質な製品を提供し続ければ、高級人気木製品ブランドの確立も可能です。そして、複数のブランドが集合することで、高級“木製品の神奈川”という高い産地ブランドの形成も夢ではありません。一方、企画と流通に重点を置いたユニクロのような情報集約型のブランド展開による新しい産地形成ももう一つの方向として考えられるでしょう。

『品物選びの楽しさ』＝いろいろなアイデアを求めたいところですが、例えば、木製の盆・トレイだけに限定した豊富な品揃えの“ワンアイテムショップ”の展開が一つの例として考えられます。また、商品展示の工夫として、使う空間に合わせられるようにカジュアル、伝統、モダンなどのテイスト分類をしたコーナー展開なども考えられます。

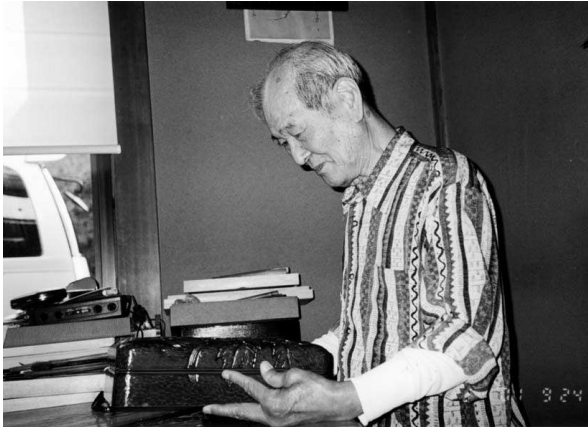
また、感性の高い生活者に対する展開として、ユーザーの細かな要望を想定した仕様を提案するとともに、さまざまな求めにも応えられる受注体制を整えたオーダーメイド生産はどうでしょうか。

あるいは、塗装色・本体素材・把手の形などのバリエーションを広く揃え、ユーザーが自由な組み合わせが選択できるセミオーダーのシステムも考えられます。その構成内容は店舗用のカタログ作成やホームページなどで情報提供します。

以上は一つの提案であり、多くの課題や問題点が含まれていると思いますが、何れにしても、個々企業が課題検討とその具体的な設計図を描き、産地全体としても、21世紀の工芸品の在り方を考えていく必要があります。それには、産地木製品に携わるメーカー・間屋・小売店はもちろん、さまざまな分野からの知恵を集結できるネットワーク形成がより大切です。当センターもその一員として、これからも工芸品産業の発展に向けての支援に努めていきたいと思っています。

工芸意匠チームリーダー 浅井 廣一郎

**福島 実 氏** 大正8年10月2日生（82才）  
藤沢市渡内在住



住まいは鎌倉市との境に近く、坂を登り切った所にある。仕事場に案内され、氏はいつも仕事をする場所に座られた。

鎌倉に生れ育ち四人兄弟の末っ子である。祖父は、東京神田で染め物職人をしていたと言う。後の義理の祖父になる人が寺社建築の宮彫職人であったのだ。ここに、福島家の彫りの家系の始まりがある。

父（福島秀岳）は同じく宮彫職人で、柴又の帝釈天のお堂も手掛けた腕の良い職人であった。時代の流れで寺社建築の仕事が少なくなり、鎌倉に職を求め、三橋鎌岳氏の職人となり、移り住むことになった。

全国から彫刻師、漆塗師が鎌倉に集まった時期でもあった。その当時の父秀岳の仕事として、大作である鶴見の大本山総持寺に納めた前机の彫刻があげられる。

大正12年、関東大震災があり鎌倉も大きな被害を受け、当時5才であったが鎌倉駅周辺の悲惨な光景を覚えていると言う。この年、三橋鎌岳氏は、京都に鎌倉彫の茶道具製作の許可を得て、鎌倉を出る。これを期に、父秀岳は独立し八幡通りに店を出した。当時この通りに鎌倉彫の店は後藤家と父の店の2店舗と、旅館、下駄屋、土産店ぐらいなもので、今のような賑わいはなかったと言う。この店で、父と三男の兄とで鎌倉彫の製作と販売を行っていた。氏は、この彫りという環境で育ち父や兄に特別な手ほどきを受けるわけでもなく、ごく自然に彫る技術を身につけていったと思われる。

やがて大戦、兵役で中国に渡り、

なれない重労働により、肺を病む。無事帰国したが体力的に無理ができず、大変苦労した時代だったと奥さんは言う。終戦後、兄が父の跡を継ぐ。この兄が彫りが上手で、福島流という彫りを広めた。福島流とは父秀岳の宮彫の影響もあり、浅く彫っても深くみせて立体感をだすもので写実的なものが多い。特に人物や動物の正面は難しく、普通は横を向かせる構図が多いが福島流の得意とするところであった。この兄は厳しい人であったが、その影響を強く受け、一時その下請けの仕事を夜にしたことで今の自分があると言う。

氏も、北鎌倉に店を出す、このころから教室のお弟子さんも増えたり、鎌倉市主催で地場産業の鎌倉彫を一般市民に親しんでもらう成人学校の講師を兄と共に勤めた。そのため、時間的余裕がなくなり、彫りと塗りでの商品製作が出来きず、立地条件の悪さもあり2年位で店を閉め、以後彫刻一筋になった。息子さんも自分からこの道に入り彫りの家系の四代目として活躍している。

現在、笹路会というグループの指導にあたる毎日である。鎌倉彫の原点は彫りを楽しむことにある。お弟子さんが苦労して彫り、塗りが上がり完成した作品を見て喜ぶ顔を見るのが楽しみだと言う。

好きでなければ出来ない職業であり、絵が好きであることが幸いしている。それに鎌倉は古い寺社建築が多くその彫刻は勉強になると、どの世界でも同じと思うが、死ぬまで勉強、自分は父の作品を参考としてきた、自分の作品は子やお弟子さんの参考になればと思い製作していると話された。

「最近のカツラは堅く悪いものが多く年寄りには彫刻するのがきつい」と、製作意欲が強く感じられることばであった。

（取材 渡辺）



## ホームページ作成のコツ

インターネットの普及に伴い、ホームページを開設するお店や企業が増えてきている。そこで、これからホームページを作成しようとする方むけに、簡潔な指針をまとめてみた。もちろんこの指針は初めて作る際の目安であるので、これを基に各自の工夫を加えていただければ幸いである。

### 全体の指針

- 1 ホームページは、見やすく、軽く、美しく。最初は極力シンプルに。
- 2 見に来る人は、知りたいことがあるから、時間と通信費を使って見に来る。イメージイラストのみのような情報量 0 のページはなるべく避ける。
- 3 ホームページは店の広告塔。ページのセンスで店や商品のセンスを見られるのを忘れずに。

### 全体構成

- 4 基本は三階層。トップにメニューや新着情報、重要情報、二階層目には縮小写真付きリストや主要製品、三階層目には大きめの写真や詳細情報を。
- 5 トップページにはタイトルや店名（何を売る店）、新着情報（展示会等の情報なら展示内容と日時、場所）、メニュー、店の情報（店の外観の縮小画像、住所と電話番号、FAX番号）を載せて、実在する店としての信用をアピールする。

### 画面構成

- 6 各ページの雰囲気統一する。
- 7 ページの構成は視線やマウスの動きを考える。
- 8 文字の大きさや色、表の枠や背景色の指定は、画像に比べて非常に軽い。画像を安易に使う前に工夫する。

### 画像

- 9 画像ファイルは一枚20Kbyte 程度、大きくても50～100Kbyte 程度にする。
- 10 縮小画像ファイルは一枚5Kbyte 程度、大きくても10～20Kbyte 程度にする。
- 11 1ページの画像ファイルの総計は100Kbyte 程度、多くても200～300Kbyte 程度にする。

### その他

- 12 ホームページは24時間見られる。問い合わせに対応できる曜日や時間は必ず明記する。また休業日や長期休みは忘れずに事前に告知する。
- 13 メールアドレスを明記した場合は、メールのチェックを毎日行い、即日または翌日返答する（届きましたの確認だけでも）。それが難しい場合はメールアドレスを明記せず、電話やFAXのみの対応にしたほうが信用を落とさない。

(工芸意匠チーム 石田博之)

## NCルータの利用について

NCルータのNCとは数値制御(Numerical Control)の略である。簡単に言えば、昔ながらのルータの加工台部分が、電気モータによって右に左に正確に動くのである。そのNCルータが当所に導入されてから既に10年以上の歳月が経つ。利用用途はトレーや盆の切削加工など様々である。これまでに当所のNCルータを利用された方も数多く居られると思うが、改めてここでその特徴や利用方法などを紹介したい。

本体は庄田鉄工株式会社製NC16-ROA。切削加工範囲は600mm×900mmで高周波2ヘッドタイプ。NCルータに取り付ける刃物の種類は、ある程度は当所で所有しているが基本的な形状<sup>※</sup>だけである。



※主な刃物の形

前段階としてNCプログラムを作るという工程を除けば、NCルータは機械が被削物を加工するので、基本的には人間は何もする必要はない。唯一することといえば、材料の交換とNCのスイッチを押すことぐらいである。また、人間と違い疲れを知らないの、何時間でも同じ作業を続けられる。1個1分の切削時間がかかるのであれば、100個なら100分の計算が単純に成り立つ。ではNCルータの仕事は非常に早いかというと、必ずしもそうではない。切削するものや数にもよるが、別の方法、例えば口クロであったり、昔ながらのルータを用いた方が早いときもある。NCは機械なので人間ほど融通が利かないからである。しかしながら、NCはとにかく100ミリ単位の正確な切削加工が可能である。1個作ろうと、1000個作ろうと全く同じ形のもので得られるのである。

さて、当所のNCルータを利用する場合、一体何を用意すればよいのか。まずは加工品の正確な図面があれば一番良いが、手描きのラフスケッチでもかまわない。もしくはモノそのもの、「こんなのがつくれないか」でもかまわない。要はどんなものを作るか、しっかりしたイメージが頭の中にあれば何とかなる。ただ、NCルータに加工できない形状や構造があるので、加工できる形状等に変更する必要がある出てくるかもしれないので、注意していただきたい。また、当所で所有している刃物の形状にも限りがあるので、場合によっては各自で刃物を用意していただかなければならないこともある。

(加工技術チーム 中島岳彦)



# お 知 ら せ

## 業 務 成 果 発 表 会 の 開 催

県内工芸企業への技術普及を目的に当所職員が研究成果、指導事例、工芸情報等により日頃の成果を発表し、併せて専門家を招いて「ディスプレイのノウハウと実践」と題した産地情報セミナーを開催します。また、懇親会を通じて発表者、参加者相互の交流や情報交換を行います。

期日：10月11日（木）13時～18時30分

会場：当所 3F カンファレンスルーム

内容：1 業務成果発表 6テーマ

2 産地情報セミナー

「ディスプレイのノウハウと実践」

3 交流・懇親会

※準備の都合上、事前申込をお願いします。

問い合わせ・申込先：工芸意匠チーム 渡辺大晃

TEL 0465-35-3024

## 工 芸 産 業 振 興 協 会 か ら の お 知 ら せ

### ◆第294回審査会の開催予定

期日：10月25日（木）午後15時30分～17時

会場：当所3F カンファレンスルーム

※奮って商品の申請のほどよろしくお願い致します。

### ◆「全国伝統的工芸品センター」と「ロボフェスタ神奈川2001」への視察

この事業は箱根物産連合会と工芸協の合同で実施されます。

期日：11月21日（水）

視察先：新装した全国伝統的工芸品センター（東京池袋）、パシフィコ横浜（横浜）

※参加希望の方は10月中旬までに連合会までご連絡下さい。

### ◆平成13年度小田原地方木製品製造業実態調査

期間：平成13年12月～平成14年2月

対象地域：小田原、箱根、南足柄、大井町、二宮町

調査機関：神奈川県産総研工芸技術センター  
神奈川県西湘地区行政センター  
小田原市経済部産業政策課  
南足柄市建設経済部産業観光課  
箱根町観光経済部観光産業課

※この時期に毎年実施しているものです。各企業のご協力をお願い致します。

### ◆社団法人 箱根物産連合会のホームページ開設

URL <http://www.hakonebussan.com/>

## 第11回伝統工芸フェスティバルの開催

工芸技術センターでは、毎年11月の伝統工芸品月間に合わせて県内工芸産業、特に小田原・箱根地域に集積している小田原漆器や箱根細工などを県民の皆様に広く知っていただくことを目的に、所内公開を行っています。

特に今年は土・日曜日に、箱根物産連合会との共催で伝統工芸士による漆塗り、寄木加工の実演や工芸品即売会を行います。併せて土曜日午後2時から日曜日にかけて手作り木工教室も行います。

会期：11月8日（木）～11日（日）

10時～16時まで

会場：工芸技術センター

内容：

1 工芸品の展示（鎌倉彫、寄木・象嵌、漆器等）

2 小田原漆器・寄木細工等の資料展示と実演

3 伝統工芸士による漆塗り、寄木加工実演（土・日曜日のみ）

4 工芸品即売会（土・日曜日のみ）

5 手作り木工教室（土曜日午後2時から日曜日）

・ペン立て、キースタンド、印鑑立てや寄木アクセサリなどのミシン加工や加飾などです。

・費用は実費です。（百円程度）

・先着100名ですが、混雑が予想されますので予め申込みを受け付けています。

問い合わせ：加工技術チームリーダー 里吉健二

TEL 0465-35-1678（直通）

## 表 彰 ・ 受 賞 者 の 紹 介

勲六等瑞宝章（鎌倉彫） 小林 常雄 氏

勲六等瑞宝章（箱根寄木細工） 露木 啓雄 氏

神奈川県民功労者表彰（鎌倉彫） 奴田 不二夫 氏

## そ の 他 の 催 事 案 内

### ◆第18回伝統的工芸品展

横浜高島屋 10月18日～23日

### ◆第29回鎌倉彫創作展

鎌倉彫工芸館 10月20日～28日

### ◆2001伝統工芸ふれあい広場

島根県松江市 11月15日～18日

### ◆全国伝統的工芸品・公募展

全国伝統的工芸品センター 12月14日～1月上旬

### ◆小田原漆器・箱根寄木細工合同特別展

そごう神戸店 1月2日～1月7日